

科目名	人間学	担当教員	平嶋 一臣	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	前期	講義	選択	2

【授業の目的及び到達目標】

「人間の本質とは何か」をあらゆる角度から論じてみたい。その角度とは大きく①実践的方法②生理的方法という2つの方向からのアプローチを指している。そのためには、方法と視点を細分化し、より具体的な問題を設定することで『人間』が見えてくるものとする。

【授業内容】

『人間』分析のために、さまざまな具体的な素材を活用していく。その中から、一人ひとりが、「人間とは何か」「人間のあるべき姿」について自ら問いかけながら、答えを見つけていく。

【授業計画】

1	オリエンテーション・『人間学』とは？	9	文学の中に現れる『人間』①
2	人間として生きる意味・価値を考える①（問題設定）	10	古典芸能の中に現れる『人間』①
3	心理学・生理学的見地から『人間』にせまる	11	絵画や書に現れる『人間』②
4	教養学的見地から『人間』にせまる	12	文学の中に現れる『人間』②
5	政治学的見地から『人間』にせまる	13	古典芸能の中に現れる『人間』②
6	文化人類学的見地から『人間』にせまる	14	『人間』を人間関係からとらえる
7	芸術的見地から『人間』にせまる	15	人間として生きる意味・価値を考える②（まとめ）
8	絵画や書に現れる『人間』①	16	試験

【関連科目】

「倫理学」「現代社会論」「教育原理」

【受講心得】

授業に集中し、毎時のレポート提出、意見発表に積極的に取り組むこと。また進行状況により授業計画の一部変更もあろう。

【成績評価の方法】

出席（20%）、レポート（30%）、授業態度・発表（20%）、試験（30%）

【教科書】

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【オフィスアワー】

質問などは、授業日または講義終了後に受け付ける。

【備考】

科目名	日本国憲法	担当教員	正平 辰男	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	前期	講義	選択	2

【授業の目的及び到達目標】

戦後60年余、日本は平和憲法をかかげて世界に冠たる経済成長を遂げてきた。しかし、憲法制定時に想定しなかった国際情勢に直面し、国内もまた、憲法制定時の社会とは比較にならない変貌を遂げた。憲法の改変が現実味を帯びて議論される今、憲法とは何かを学ぶ必要が今までになく高まっている。憲法は、人権と統治機構についての規定から成り立っているが、判例や解釈や具体的な社会事象を通して生活次元で憲法を取り上げ考察を深める。教職にたずさわる者に必要とされるエッセンスについても学ぶ。

【授業内容】

次の各事項について学習する。「憲法とはなにか」「人権の保障」「政治の仕組み」「国際平和と日本～第9条」「憲法改正と私たちの未来」これらのテーマと憲法の各条項を照らし合わせて、その意味と課題を考察する。重要な判例をひもとき、社会で関心を呼んでいる憲法問題の情報を収集して具体的に考察する。

【授業計画】

1	憲法総論・憲法とはなにか	9	判例学習（総論・統治機構1 戦争の放棄）
2	日本国憲法の生い立ち、憲法総論・天皇	10	判例学習（総論・統治機構2 国会・内閣）
3	憲法総論・平和主義と安全保障	11	判例学習（総論・統治機構3 裁判所）
4	グループ学習と判例学習の進め方	12	判例学習（総論・統治機構4・グループ発表）
5	判例学習（人権1 総論・権利及び義務）	13	判例学習（教育を受ける権利1）
6	判例学習（人権2・精神的自由）	14	判例学習（教育を受ける権利2）
7	判例学習（人権3・経済的自由及び適法手続き）	15	国民の司法参加と裁判員制度
8	判例学習（人権4・グループ発表）	16	試験

【関連科目】

「人間学」「社会福祉概論」「社会福祉論」「教育原理」

【受講心得】

憲法との関連において、新聞、テレビの報道に取り上げられる記事を考えることを習慣づけて欲しい。

【成績評価の方法】

試験成績50%、出席状況を含めて受講態度50%で評価する。

【教科書】

『新はじめて学ぶ憲法』 高橋裕次郎 著 三修社

【参考書】

『憲法判例集〔第10版〕』 野中俊彦・江橋崇 著 有斐閣新書

【オフィスアワー】

随時質問は受け付けます。

【備考】

栄養教諭課程・小学校教諭課程・幼稚園教諭課程必修
(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目：日本国憲法)

科目名	手話	担当教員	金子イシエ	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	前期	演習	選択	1

【授業の目的及び到達目標】

手話は、障害を持つ聾者とのコミュニケーション手段であり、障害の有無に関わらず皆と共に手を取り合っていく社会づくりの精神を養う事を目的とします。

【授業内容】

・手話での自己紹介（名前、年齢、趣味、住所、家族など） ・指文字、県名、駅名の手話表現 ・医療に関する手話
 ・手話ソング（歌詞）の意味を理解し表現する ・実際に聾者と手話での交流をする

【授業計画】

1	手話の由来、なりたち・指文字・手話ソング	9	ビデオ（スポーツ）・駅名（地下鉄・西鉄）
2	自己紹介（名前、年齢、誕生日）・指文字・手話ソング	10	医療に関する手話（身体と病気）
3	自己紹介（家族、住所）・指文字・手話ソング	11	医療に関する手話（医療のすべて）
4	自己紹介（趣味他）・指文字・手話ソング	12	医療に関する手話（医療のすべて）
5	ビデオ（人差指編）・県名・手話ソング	13	聾者との交流の為の質問事項を考える・手話ソング
6	ビデオ（親指編）・県名・手話ソング	14	聾者との交流
7	ビデオ（グー、チョキ、パー編）・県名・手話ソング	15	14回までのまとめ
8	ビデオ（食べ物編）・県名・手話ソング	16	試験

【関連科目】

【受講心得】

聾者との会話は 手話と同時に口話（口の動きで読み取る）表情が大切です。受講中は私語を慎むこと

【成績評価の方法】

試験の成績50% 授業態度30% 出席状況20%

【教科書】

【参考書】

日本語手話辞典 私たちの手話

【オフィスアワー】

質問等は講義中または講義終了後に受け付ける。

【備考】

科目名	体育理論	担当教員	三好 伸幸	学年	期別	方法	必選	単位数
				2	前期	講義	選択	1

【授業の目的及び到達目標】

現代社会では身体活動量が減少し、身体活動の減少と伴に生活習慣病の蔓延や子供の体力低下が懸念されている。身体活動・運動は生活習慣病と密接に関わっており、運動による生活習慣病の予防・改善効果が科学的に明らかにされている。すなわち、生涯にわたって健康生活を維持するためには、ライフスタイルに活発な身体活動や運動を取り込むことが必要である。

そこで本科目では、身体運動が身体に及ぼす効果について科学的に理解を深めていくことを目的とし、体育・生涯スポーツの必要性について考察し、実践する態度や能力を養うことを目標とする。

【授業内容】

「身体活動・運動と健康」に重点を置き、自身のライフスタイルを振り返り考察する。また、成長期から高齢期まで幅広い年代の特徴を踏まえ、身体活動・運動が身体に及ぼす効果について科学的に理解を深めていく。

※理解度や進行度により、授業内容を変更することもある。

【授業計画】

1	はじめに、日常生活動作とエネルギー消費量
2	身体活動と健康(自身のライフスタイルを振り返る)
3	身体活動と健康(子どもの成長に及ぼす影響)
4	加齢変化と身体活動・運動の効果
5	運動と生活習慣病①
6	運動と生活習慣病②
7	運動と栄養(エネルギー出納バランスの観点から)
8	まとめ
9	試験

【関連科目】

「体育実技」

【受講心得】

積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。

【成績評価の方法】

定期試験の成績(60点)、受講態度及び出席状況(40点)を総合的に判断して決定する。

【教科書】

資料配布

【参考書】

随時紹介

【オフィスアワー】

質問等は、講義中または講義終了後に受け付ける。

【備考】

栄養教諭課程・小学校教諭課程・幼稚園教諭課程・保育士課程必修

科目名	体育実技	担当教員	畑本 陽一	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	前期	実技	選択	1

【授業の目的及び到達目標】

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現と自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を養うことを目指す。

特に本講義では、身体活動の楽しさや喜びを自ら体験するとともに、その喜びを他者にも提供できるよう、運動に親しむことができる資質と能力を育成する。

【授業内容】

「身体活動の楽しさや喜びを自ら体験するとともに、その喜びを他者にも提供できる」ことを目的とし、人とのコミュニケーションを含むさまざまな運動、スポーツを行なう。また、健康面については自分自身の体力レベルを知るために簡易な測定法を用いて、実際に体力レベルを測定する。

*理解度や進行度により、授業内容を変更することもある。

【授業計画】

1	オリエンテーション (身体ほぐしの運動)	9	球技2 フットサル
2	球技1 バasketボール	10	球技2 フットサル
3	体力測定	11	球技3 卓球およびバドミントン
4	体力測定	12	球技3 卓球およびバドミントン
5	球技1 バasketボール	13	球技3 卓球およびバドミントン
6	球技1 バasketボール	14	レクリエーション
7	球技2 フットサル	15	レクリエーション
8	球技2 フットサル	16	試験

【関連科目】

「体育理論」

【受講心得】

積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。

毎回、ジャージ、体育館シューズを着用のこと。

【成績評価の方法】

定期試験の成績(60点)、受講態度及び出席状況(40点)を総合的に判断して決定する。

【教科書】

資料配布

【参考書】

随時紹介

【オフィスアワー】

質問等は講義中または講義終了後に受け付ける。

【備考】

栄養教諭課程・小学校教諭課程・幼稚園教諭課程・保育士課程必修

科目名	倫理学	担当教員	渡部 明	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	後期	講義	選択	2

【授業の目的及び到達目標】

倫理学とは基本的には原理的な次元で「人間とは何か」を問い、そのよき生を構想する学問である。ただ、20世紀になって技術の発達と高度情報化が新たに解決困難な問いを我々に突きつけてきた。ここでは「人間とは何か」を論じるために、SFの名作「スタートレック」を手がかりに、ラディカルな思考実験を通して、その本質的な要素を現実的な生命、情報の具体的な場で提示することを目的とする。本講義においては、できるだけ具体的な問題設定をすることで、人間とは何かについて考えていきたい。また、本講義では、個体-特殊者（オリジナル-コピー）、言語-VR（二人称—一人称）、権利-事実（関係-実体）などの区別が決定的に重要であることが示される。

【授業内容】

素材として「新スタートレック」のエピソードを導きとして利用し、生命と情報という観点から具体的な人間の諸相を扱う。本講義では、ヴィジュアル的素材を多用しつつ、「人間とは何か」を自分自身の頭で考えるための工夫をする。

【授業計画】

1	オリエンテーション 人間とは何か 人間の定義	9	コミュニケーション（2）
2	哲学的人工知能論からのアプローチ	10	遺伝子操作惑星と人工妊娠中絶（1）
3	個体-コピー-ひと	11	遺伝子操作惑星と人工妊娠中絶（2）
4	自我の不在あるいはインターネット（1）	12	生命倫理と能力主義（1）
5	自我の不在あるいはインターネット（2）	13	生命倫理と能力主義（2）
6	人格の問題（1）	14	法の正義と死刑問題（1）
7	人格の問題（2）	15	法の正義と死刑問題（2）
8	コミュニケーション（1）	16	試験

【関連科目】

「現代社会論」「人間学」

【受講心得】

テキスト、ノート、筆記用具を持参し、受講中は私語・携帯電話操作等をせず、授業に集中すること。学生との相談、授業の進行状況により授業計画の一部変更もありうる。

【成績評価の方法】

定期試験の成績（80%）、受講態度及び出席状況（20%）を総合的に判断して決定する。

【教科書】

『生命と情報の倫理「新スタートレック」に人間を学ぶ』渡部 明著（ナカニシヤ出版）2010

【参考書】

講義中に指示する。

【オフィスアワー】

質問等は随時受け付ける。

【備考】

科目名	現代社会論	担当教員	渡部 明	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	後期	講義	選択	2

【授業の目的及び到達目標】

現代社会の構造をグローバルな視点から解き明かすことを目的とする。現代社会は、中世から近代への移行にも比すべき、大きな転換点に立っている。技術が加速度的に進展し、高度情報化社会が出現すると同時に、生産から消費へのパラダイムシフトも進行しつつある。世界的には、国際的交流が緊密化し、ボーダレス化が展開すると同時に、民族間の対立や個人の平等化の主張が広がっている。こうした現代社会を理解する視点はどこにあるのか。この講義では、基本的な問題から具体的な現象まで詳説する。

【授業内容】

ポスト近代的な社会構造への転換の中で、現代社会を高度情報化社会・高度消費社会・成熟社会という視点から俯瞰する。また、現代社会に生きる人間の意識構造（多元化した価値意識）、宗教ブーム、個人や民族の相対主義、地球全体のエコシステムといったトピックスをとりあげることで現代社会のあり方をグローバルに考える。

【授業計画】

1	近代的産業社会からポスト近代的な社会構造への転換	9	成熟社会（2）
2	高度情報化社会（1）	10	成熟社会（3）
3	高度情報化社会（2）	11	現代社会の意識（1）
4	高度情報化社会（3）	12	現代社会の意識（2）
5	高度消費社会（1）	13	現代社会の意識（3）
6	高度消費社会（2）	14	エコシステムと現代社会（1）
7	高度消費社会（3）	15	エコシステムと現代社会（2）
8	成熟社会（1）	16	試験

【関連科目】

「人間学」「倫理学」

【受講心得】

ノート、筆記用具を持参し、受講中は私語・携帯電話操作等をせず、授業に集中すること。学生との相談、授業の進行状況により授業計画の一部変更もありうる。

【成績評価の方法】

定期試験の成績（80%）、受講態度及び出席状況（20%）を総合的に判断して決定する。

【教科書】

特になし。

【参考書】

講義中に指示する。

【オフィスアワー】

質問等は随時受け付ける。

【備考】

科目名	暮らしと環境	担当教員	都築 廣久	学年	期別	形態	必選	単位数
				2	後期	講義	選択	2

【授業の目的及び到達目標】

人類が追い求めてきた快適で豊かな生活は、膨大なエネルギーを必要としたため、特に太古から太陽エネルギーを蓄積した化石燃料を大量に消費してきた。その結果、地球の温暖化、大気汚染、酸性雨をもたらし、さらには森林破壊や砂漠化の進行、各種廃棄物の排出による水質汚濁や海洋汚染をも引き起こした。本講義では、これら地球規模での諸問題の実態を正しく認識するとともに、現代の大量消費社会で排出される廃棄物の現状と、主にリサイクルによる資源の有効利用に関する知識を修得する。

【授業内容】

現在、地球規模で拡大を見せている様々な環境破壊の現状と、種の保存のために必要な自然環境保全の対策及び廃棄物、リサイクル（再利用、再生利用、資源転換）に関する最近の動向と、ダイオキシン類の発生と対策に関して解説する。

【授業計画】

1	地球環境問題の概要	9	内分泌かく乱化学物質
2	地球環境の生い立ち	10	廃棄物問題
3	オゾン層の破壊	11	リサイクルの概要とリサイクル法
4	地球の温暖化	12	古紙のリサイクル
5	酸性雨	13	ガラスビン、アルミ缶・スチール缶のリサイクル
6	大気汚染物質と越境移動	14	エネルギー資源
7	河川および海洋の水質汚濁	15	まとめ
8	熱帯林の減少と砂漠化	16	試験

【関連科目】

『生活環境と健康』、『生活環境実習』、『化学』

【受講心得】

日頃から自分達の暮らしと環境に関する話題に関心をもつこと。

【成績評価の方法】

定期試験の成績（80％）、受講態度（10％）及び出席状況（10％）を判断して決定する。

【教科書】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

『生活と環境』 藤城 敏幸著 東京教学社
『新版やさしい環境科学』 保田 資仁著 化学同人

【オフィスアワー】

通年 月曜日 昼休み
通年 金曜日 昼休み

【備考】